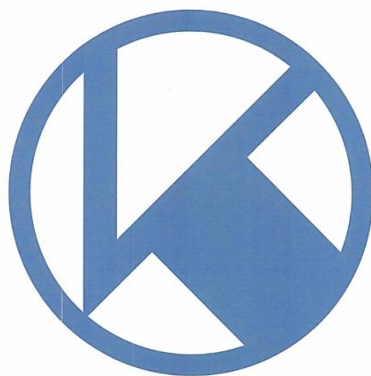


2025年度
郡山健康科学専門学校
講義概要



国際日本語学科

学校法人こおりやま東都学園

国際日本語学科 2025年度生 履修一覧

福祉ビジネスコース

教育内容	科目名	前期	後期
基礎科目	世界の文化		●
	職業理解	●	●
	情報処理概論		●
	情報処理演習		●
	ビジネスマナー概論	●	
	ビジネスマナー演習	●	
専門科目 (選択必修2)	やさしい日本語	●	●
	日本語演習	●	●
	介護福祉学	●	●
	介護福祉演習	●	●
	介護総合	●	●
	介護総合演習	●	●

日本語教師実践コース

教育内容	科目名	前期	後期
基礎科目	世界の文化		●
	職業理解	●	●
	情報処理概論		●
	情報処理演習		●
	ビジネスマナー概論	●	
	ビジネスマナー演習	●	
専門科目 (選択必修1)	日本語教育学	●	●
	教育演習Ⅰ	●	●
	教育演習Ⅱ	●	●

※日本語教育学は、外部で通信及び対面教育にて履修します。

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
世界の文化		渡邊みどり			渡邊
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	後期	8(15)	演習	1
【授業の概要・目的】					
多様な仲間と学ぶために、互いの文化について知り、共感することで、協学する仲間として受け入れることができる。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①国によって文化(衣・食・住など)に違いがあることがわかり、受け入れることができる。 ②日々の生活の中で、多様な文化について状況把握をし、主体的に行動することができる。				発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性	
【履修上の注意】		主体的に授業に参加しましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	ガイダンス	文化・生活様式とはなにか、なぜ必要なのかを理解でき、国によって違いがあることが理解できる。			グループ
2	文化・生活様式について知ろう(アジア編)	アジアの文化・生活様式(衣・食・住など)についてまとめその情報について発信できる。			グループ
3	文化・生活様式について知ろう	アジア以外の文化・生活様式(衣・食・住など)についてまとめその情報について発信できる。			グループ
4	日本の文化・生活様式について体験しよう(食事編)	日本の文化・生活様式(衣・食・住など)について実践で受け入れられる。			郊外実習
5	日本の文化・生活様式について体験しよう(文化編)	日本の文化・生活様式(衣・食・住など)について実践で受け入れられる。			郊外実習
6	自分の国の文化についてを発表しよう	自分の国について発信することができ、発表する仲間の意見を傾聴することができる。			個人
7	多様な人々と生活するための条件	多様な文化について状況把握をし、主体的に行動することができる。			グループ
8	まとめ	このコマで行った内容について、チームごとに振り返り、発表することができる。			グループ
期末試験	期末試験レポート	評価方法	課題の達成度 60%	受講態度	40%
【教科書】	資料等を配布する。				
【参考書】	必要に応じて教員から指示します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		各国についての特徴について生活の中で情報収集する。			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
職業理解(1/2) ※実務経験のある教員の授業科目		田中 絹代 ¹⁾			渡邊
		1) 作業療法士(JICA:独立行政法人国際協力機構)5年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	通年	30(60)	講義・演習	3
【授業の概要・目的】					
自分が目指す将来の職業を考え、その職業になるための人生設計ができる。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①職業とはなぜ必要なのかを理解することができる。 ②自分が目指す職業を見つけることができる。				発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性	
【履修上の注意】		主体的に授業に参加しましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	ガイダンス	職業はなぜ必要なのか?自分の将来の夢とは何かを考えるきっかけができる。			個人
2	人生設計について	人生設計とはなにか理解し、自らの人生について考えることができる。			個人
3	キャリアについて	キャリアとはなにか理解し、自らの人生について考えることができる。			個人
4	様々な職業の理解①	様々な職業があり、その職業に必要な資格があることが理解できる。			個人
5	様々な職業の理解②	様々な職業があり、その職業に必要な資格があることが理解できる。			個人
6	対人援助職体験学習 ①	その人を知る① 1日の生活のリズムをインタビューすることができる。			グループ
7	対人援助職体験学習 ②	その人を知る② 1日の生活のリズムを詳しく聞くことができる。			グループ
8	対人援助職体験学習 ③	その人を知る③ インタビューした人について発表することができる。			グループ
9	対人援助職体験学習 ④	その人の目標についてインタビューすることができる。			グループ
10	対人援助職体験学習 ⑤	その人の目標を達成するためのプログラムを考えることができる。			グループ
11	対人援助職体験学習 ⑥	その人の目標を達成するためのプログラムを発表することができる。			グループ
12	対人援助職体験学習 ⑦	なぜ、その人を知る、目標を達成するためのプログラムを考えるのか考えることができる。			グループ
13	対人援助体験学習まとめ①	OTとのコラボ授業で学んだことをまとめることができる。			個人
14	対人援助体験学習まとめ②	まとめた内容を発表資料として作ることができる。			個人
15	対人援助体験学習まとめ③	まとめた内容を発表することができる。			個人
期末試験	期末試験レポート	評価方法	発表会の結果 課題の達成度	60%	受講態度 40%
【教科書】	資料等を配布する				
【参考書】					
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】		OS機器を活用した、プレゼンの事例の検索を行う			
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
職業理解(2/2) ※実務経験のある教員の授業科目		田中 絹代 ¹⁾			渡邊
		1) 作業療法士(JICA:独立行政法人国際協力機構)5年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	通年	30(60)	講義・演習	3
【授業の概要・目的】					
自分が目指す将来の職業を考え、その職業になるための人生設計ができる。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①様々な職業を体験をすることで、なりたい職業とのミスマッチを防ぐことができる。 ②なりたい職業を実行できるように人生設計について具体的に示すことができる。 ③ミライを見据えた自分の人生設計に必要なことが理解できる。				発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性	
【履修上の注意】		主体的に授業に参加しましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
16	ガイダンス	職業はなぜ必要なのか?自分の将来の夢の実現に向けて何が必要なのかを考えることができる。			個人
17	ミライの社会について①	2050年後などを踏まえ、社会がどうなっていくか理解できる。			グループ
18	ミライの社会について②	自分のなりたい職業がどうなるのか考えることができる。			個人
19	ミライの自分と社会について	ミライの自分と社会にはどのような課題があるのか考えることができる。			個人
20	ミライの仲間と社会について	ミライの仲間と社会にはどのような課題があるのが考えることができる。			グループ
21	職業の理解①	VRTカードを利用し、自らの職業の方向や自信の程度を理解することができる。			個人
22	職業の理解②	再度、目指したい・興味がある職業について調べることができる。			個人
23	人生設計について①	自分の人生設計について具体的に示すことができる。			グループ
24	人生設計について②	自らの人生について実行できるよう計画を立てることができる。			個人
25	日本で学ぶための心構えについて	日本で学ぶ際に必要な心構えを理解し実践することができる。			グループ
26	自己セルフケアについて	セルフケアとは何かを理解して、自らのセルフケアを行うことができる。			個人
27	他者のセルフケアについて	他者セルフケアとは何かを理解して、自らできることを考えることができる。			グループ
28	総合課題演習Ⅰ	グループでミライを見据えた人生設計について必要なことはにかについてまとめことができる。			グループ
29	総合課題演習Ⅱ	グループで発表資料を作成する。			グループ
30	総合課題演習Ⅲ	グループごとに発表を行い、ミライを見据えた人生設計について深めることができる。			グループ
期末試験	期末試験レポート	評価方法	発表会の結果	60%	受講態度
【教科書】	資料等を配布する				
【参考書】					
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		OS機器を活用した、プレゼンの事例の検索を行う			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
情報処理概論		渡邊みどり			渡邊
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	後期	8(15)	講義	1
【授業の概要・目的】					
基本的なOS機能を活用して、資料作成・グラフ等を使ってプレゼンができるようになる。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①Wordについて基本的な利用方法について理解し実践できる。 ②Excelについての基本的な利用方法について理解し実践できる。 ③PowerPointについての基本的な利用方法について理解し実践できる。				発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性	
【履修上の注意】		主体的に授業に参加しましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	ガイダンス	情報処理能力がなぜ必要性・活用性を理解する。			個人
2	OS機器の操作方法②	OS機器の操作方法を理解し実践できる。			個人
3	Wordの基本操作	Wordについて基本的な利用方法について理解し実践できる。			個人
4	Excelの基本操作	Excelについて基本的な利用方法について理解し実践できる。			個人
5	PowerPointの基本操作	PowerPointの操作に必要な利用方法について理解し実践できる。			個人
6	動画・ビデオ・写真の撮影方法と編集について	ビジネスで活用する動画・ビデオ・写真について、テーマにあった素材を作成することが理解できる。			個人
7	ビジネスシーンで活用する資料や文章について ①	ビジネスで活用する社公文書の種類がわかり、必要に応じた社外文書の違いを理解することができる。			個人
8	ビジネスシーンで活用する資料や文章について ②	ビジネスで活用する社外文書の種類がわかり、必要に応じた社外文書の違いを理解することができる。			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	小テスト 60%	受講態度 40%	
【教科書】	資料等を配布する				
【参考書】	2020年最新改訂版！ワード/エクセル/パワーポイント 基本の使い方がぜんぶわかる本 Kindle版				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		OS機器を活用した、プレゼンの事例の検索を行う			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
情報処理演習		渡邊みどり			渡邊
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	後期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
基本的なOS機能を活用して、資料作成・グラフ等を使ってプレゼンができるようになる。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①OS機器を活用し、作成する資料の構想を考えることができる。 ②それに伴い必要なグラフや・動画・写真等などを、OS機器を活用して作成できる。				発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性	
【履修上の注意】		主体的に授業に参加しましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	ガイダンス	情報処理能力がなぜ必要性・活用性を理解する。			個人
2	ワードで文章を作成する	ワードの機能を理解して、見やすい文書・文字体を活用して文書を見やすく作成できる。			個人
3	ワードで文章を作成する書類を作る	ワードの機能を理解して、見やす書類が作成できる。			個人
4	PPTに、グラフ・写真を取り込む	PPTの機能を理解して、見やすグラフ・写真の取り込みが作成できる。			個人
5	PPTで動画を作成する	作成したグラフや写真を使って動画を作成できる。			個人
6	PPTで動画を作成し発表する	作成したグラフや写真を使って動画を作成でき、発表できる。			個人
7	プレゼン資料のテーマを決める	プレゼンの発表に関する条件を理解したテーマの選択ができる			グループ
8	プレゼンテーマの資料作成計画を経てる	プレゼン資料を作成するための作成計画をグループで検討、実践できるまで準備できる。			グループ
9	資料作成	プレゼン資料を作成するための作成計画をグループで検討、実践できるまで準備できる。			グループ
10	資料作成	プレゼン資料を作成するための作成計画をグループで検討、実践できるまで準備できる。			グループ
11	プレゼン大会の告知チラシを作る	告知チラシの構成を考えを作成することができる。			グループ
12	プレゼン大会の告知をする	告知チラシを招待客にお知らせ、配布することができる。			グループ
13	プレゼンの準備	伝わりやすいプレゼンを考を、チームで考え実践することができる。			郊外実習
14	プレゼン大会	外部にむけて、資料を活用してプレゼンができる。			郊外実習
15	まとめ				
期末試験	期末試験レポート	評価方法	課題の達成度 発表会の結果	40% 40%	受講態度 20%
【教科書】	資料等を配布する				
【参考書】	必要に応じて教員から指示します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		OS機器を活用した、プレゼンの事例の検索を行う			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
ビジネスマナー概論		渡邊みどり			渡邊
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	前期	8(15)	講義	1
【授業の概要・目的】					
ビジネス実務マナー検定2・3級取得するための知識や技術を習得する。					
【学習目標(到達目標)】 ①社会人として就業に必須なビジネス知識や技能を習得し、組織の一員としての役割・責任を遂行できる。				【受講して得られる力】 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性	
【履修上の注意】		主体的に授業に参加しましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	ガイダンス	社会人として求められる礼儀作法(ビジネスマナー)とは何か理解することができる。			個人
2	第1章 必要とされる資質	企業が求められる資質(スキル)とは何か理解でき実践できる。			個人
3	第2章 企業実務	組織の一員としての、企業の仕組み・機能・役割などが理解でき、自己の役割や責任が何か理解できる。			個人
4	第3章 対人関係	企業に関係する人との良質なコミュニケーションがなぜ必要なのかを理解、スムーズなコミュニケーションが図れるよう目指すことができる。			個人
5	第4章 電話実務	電話が声のコミュニケーションであることを理解し、電話が情報伝達の役割であることを理解する。			個人
6	第5章 技能	ビジネスに必要な、情報の取り扱いを理解し状況に応じて情報の処理を整理し対応できる。			個人
7	総合演習 ①	第1章～3章で取得した知識・技術を活用してビジネスシーンに合わせた実践ができる。			個人
8	総合演習 ②	第4章～5章で取得した知識・技術を活用してビジネスシーンに合わせた実践ができる。			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	小テスト 60%	受講態度 40%	
【教科書】	ビジネスマナー教科書 ビジネス実務マナー検定2・3級らくらく合格テキスト&問題集				
【参考書】	ビジネスマナー教科書 ビジネス実務マナー検定2・3級らくらく合格テキスト&問題集				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		OS機器を活用した、プレゼンの事例の検索を行う			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
ビジネスマナー演習		渡邊みどり			渡邊
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	前期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
ビジネス実務マナー検定2・3級取得するための知識や技術を習得する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①実践したことを振り返り、自己の課題を抽出し解決策を考えることができる。 ②ビジネス実務マナー検定2.3級いずれかに合格することができる。				発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性	
【履修上の注意】		主体的に授業に参加しましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	第1章 必要とされる資質(実践)	企業が求められる資質(スキル)について、自己実践し自己課題を抽出することができる。			個人
2	第2章 必要とされる資質(応用)	企業が求められる資質(スキル)について、自己実践し自己課題を抽出することができる。			個人
3	第2章 企業実務(実践)	企業の実務について、自己実践し自己の役割を抽出することができる。			個人
4	第3章 対人関係(実践)	対人関係について、自己実践し自己課題を抽出することができる。			個人
5	第4章 対人関係(応用)	対人関係について、自己実践し自己課題を抽出することができる。			個人
6	第4章 電話実務(実践)	電話実務について、自己実践し自己課題を抽出することができる。			個人
7	第5章 電話実務(応用)	電話実務について、自己実践し自己課題を抽出することができる。			個人
8	第5章 技能(実践)	技能について、自己実践し自己課題を抽出することができる。			個人
9	第5章 技能(応用)	技能について、自己実践し自己課題を抽出することができる。			個人
10	ビジネス実務マナー検定3級 試験対策①	ビジネス実務マナー検定3級出題範囲を理解し、自己採点で不正解だった問題について明確に理解できるようになる。			個人
11	ビジネス実務マナー検定3級 試験対策②	ビジネス実務マナー検定3級出題範囲を理解し、自己採点で不正解だった問題について明確に理解できるようになる。			個人
12	ビジネス実務マナー検定2級 試験対策①	ビジネス実務マナー検定2級出題範囲を理解し、自己採点で不正解だった問題について明確に理解できるようになる。			個人
13	ビジネス実務マナー検定2級 試験対策②	ビジネス実務マナー検定2級出題範囲を理解し、自己採点で不正解だった問題について明確に理解できるようになる。			個人
14	模擬試験①	模擬試験を行い、自己採点で不正解だった問題について明確に理解できるようになる。			個人
15	模擬試験②	模擬試験を行い、自己採点で不正解だった問題について明確に理解できるようになる。			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 80%	受講態度 20%	
【教科書】	ビジネスマナー教科書 ビジネス実務マナー検定2・3級らくらく合格テキスト&問題集				
【参考書】	ビジネスマナー教科書 ビジネス実務マナー検定2・3級らくらく合格テキスト&問題集 ビジネス実務マナー検定 実問題集2・3級				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】OS機器を活用した、プレゼンの事例の検索を行う					
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
介護福祉学(1/3)		渡邊みどり			渡邊
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	前期	45(90)	講義	3
【授業の概要・目的】					
介護に関心が持て、介護職としての基本的な知識や技術を学び、介護従事者としての心構えができる。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①介護とは何か福祉とは何かが理解でき、介護職としての役割や日本国の福祉制度について理解できる。 ②介護職の役割を理解し、介護に必要な専門性についての知識や技術を習得し実践することができる。				発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性	
【履修上の注意】		主体的に授業に参加しましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	介護を取り巻く環境	なぜ介護が必要なのかについて理解し、介護に関心や興味を持つことができる。			グループ
2	介護とはなにか 尊厳を支える・自立支援を支える介護 とはなにか	「介護」・「福祉」とはなにか、なぜ必要なのかを理解でき、国によって違いがあることが理解できる。			グループ
3	介護保険制度とその他のサービス	介護保険制度や対象となる利用者が理解できる。			グループ
4	介護職の役割と多職種連携について	介護職はチームで支援を行うということが理解でき、介護職としてのチームでの連携について理解できる。			グループ
5	コミュニケーションの方法	介護におけるコミュニケーションとは何かを理解し、介護職としての対応方法が理解できる。			グループ
6	介護を必要とする人の理解	老化とは何かを理解し、障害によって支援の方法が異なることが理解できる。			グループ
7	障がい・認知症の理解	障害や認知症に関する知識が理解でき、認知症に対する支援方法を考え実践できる。			グループ
8	心身に応じた介護	介護職として支援していくうえで必要な心構えが理解でき実践できる。			グループ
9	介護技術入門	介護に必要な環境や用具の取り扱いが理解でき実践できる。			グループ
10	移動介助のリスク	移動・移乗の違いや必要性が分かり、介助をするうえでのリスクがあることを理解し実践ができる。			グループ
11	身じたくのリスク	身じたくについての必要性が分かり、介助をするうえでのリスクがあることを理解し実践ができる。			グループ
12	食事の介護のリスク	食事についての必要性や、介助をするうえでのリスクがあることを理解し実践ができる。			グループ
13	入浴の介護のリスク	入浴についての必要性や、介助をするうえでのリスクがあることを理解し実践ができる。			グループ
14	排泄の介助のリスク	排泄についての必要性や、介助をするうえでのリスクがあることを理解し実践ができる。			グループ
15	まとめ	介護職の役割を理解した、支援を考えチームで実践できる。			グループ
期末試験	筆記・実技試験	評価方法	筆記試験 40% 実技試験 40%	受講態度 20%	
【教科書】	はじめての介護入門研修テキスト第2版				
【参考書】	必要に応じて教員から指示します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 各国についての特徴について生活の中で情報収集する。					
【本講義に関する質問先】 担当教員		【質問方法】 教員室にて			

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
介護福祉学(2/3)		渡邊みどり			渡邊
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	前期	45(90)	講義	3
【授業の概要・目的】					
介護に関心が持て、介護職としての基本的な知識や技術を学び、介護従事者としての心構えができる。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①介護職としての役割や介護に関する制度が理解できる。 ②介護の専門性についての知識や技術を習得し実践することができる。				発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性	
【履修上の注意】		主体的に授業に参加しましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
16	前期の復習① 講義	前期で何を学んだのかを理解し、介護職としての職務を理解し実践できる。			グループ
17	前期の復習② 実技	前期で何を学んだのかを理解し、介護職としての職務を理解し実践できる。			グループ
18	心身に応じた介護	介護職として支援していくうえで必要な心構えが理解でき実践できる。			グループ
19	介護技術入門	介護に必要な環境や用具の取り扱いが理解でき実践できる。			グループ
20	移動介助の方法	移動・移乗の違いや必要性が分かり、介助をするうえでのリスクがあることを理解し実践ができる。			グループ
21	移動介助の方法	移動・移乗の違いや必要性が分かり、介助をするうえでのリスクがあることを理解し実践ができる。			グループ
22	身じたくの介護の方法	身じたくについての必要性が分かり、介助をするうえでのリスクがあることを理解し実践ができる。			グループ
23	食事の介護の方法	食事についての必要性や、介助をするうえでのリスクがあることを理解し実践ができる。			グループ
24	入浴の介護方法について	入浴についての必要性や、介助をするうえでのリスクがあることを理解し実践ができる。			グループ
25	移動介助の方法	移動・移乗の違いや必要性が分かり、介助をするうえでのリスクがあることを理解し実践ができる。			グループ
26	排泄の介助方法について	排泄についての必要性や、介助をするうえでのリスクがあることを理解し実践ができる。			グループ
27	介護の応用編①	片麻痺の人への支援方法を考え、実践できる。			グループ
28	介護の応用編②	認知証の人への支援方法を考え、実践できる。			グループ
29	介護の応用編③	寝たきりの人の支援方法を考え、実践できる。			グループ
30	まとめ	その人に寄り添う介護とは何かを考え、介護職として支援することができる。			グループ
期末試験	筆記・実技試験	評価方法	筆記試験 40% 実技試験 40%	受講態度 20%	
【教科書】	はじめての介護入門研修テキスト第2版				
【参考書】	必要に応じて教員から指示します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 各国についての特徴について生活の中で情報収集する。					
【本講義に関する質問先】 担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
介護福祉学(3/3)		渡邊みどり			渡邊
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	後期	45(90)	講義	3
【授業の概要・目的】					
介護に関心を持って、介護職としての基本的な知識や技術を学び、介護従事者としての心構えができる。					
【学習目標(到達目標)】 ①介護の専門性についての知識や技術を理解した上で、安全・安心な実践することができる。				【受講して得られる力】 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性	
【履修上の注意】		主体的に授業に参加しましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
31	介護福祉学Ⅱの復習	何を学んだのかを理解し、介護職としての職務を理解し実践できる。			グループ
32	介護技術入門 復習	介護に必要な環境や用具の取り扱いが理解でき実践できる。			グループ
33	移動介助の方法 復習	移動・移乗の違いや必要性が分かり、歩行介助をするうえでのリスクがあることを理解し実践ができる。			グループ
34	移動介助の方法 復習	移動・移乗の違いや必要性が分かり、車いす介助をするうえでのリスクがあることを理解し実践ができる。			グループ
35	身じたくの介護の方法 復習	身じたくについての必要性が分かり、座位での介助をするうえでのリスクがあることを理解し実践ができる。			グループ
36	身じたくの介護の方法 復習	身じたくについての必要性が分かり、寝たきりの方の「介助をするうえでのリスクがあることを理解し実践ができる。			グループ
37	食事の介護の方法 復習	食事についての必要性や、介助をするうえでのリスクがあることを理解し実践ができる。			グループ
38	入浴の介護方法について 復習	入浴についての必要性や、介助をするうえでのリスクがあることを理解し実践ができる。			グループ
39	排泄の介助方法について 復習	排泄についての必要性や、トイレ介助をするうえでのリスクがあることを理解し実践ができる。			グループ
40	排泄の介助方法について 復習	排泄についての必要性や、オツム交換をするうえでのリスクがあることを理解し実践ができる。			グループ
41	介護の応用編①	片麻痺の人への支援方法を考え、実践できる。			グループ
42	介護の応用編②	認知証の人への支援方法を考え、実践できる。			グループ
43	介護の応用編③	寝たきりの人の支援方法を考え、実践できる。			グループ
44	介護福祉学総合課題演習	課題に対する支援方法について実践できる。			個人
45	まとめ	介護福祉学を総合的に理解ができる。			個人
期末試験	筆記・実技試験	評価方法	筆記試験 40% 実技試験 40%	受講態度 20%	
【教科書】	はじめての介護入門研修テキスト第2版				
【参考書】	必要に応じて教員から指示します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 各国についての特徴について生活の中で情報収集する。					
【本講義に関する質問先】 担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
介護福祉演習(1/4)		渡邊みどり			渡邊
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	前期	60(120)	講義	4
【授業の概要・目的】					
日本で進路を決める際、進め方のポイントを学習し、自分で進路を決めることができる。					
【学習目標(到達目標)】 自分で希望する進路を選択することができる。 進路について計画を立てることができる。				【受講して得られる力】 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性	
【履修上の注意】		主体的に授業に参加しましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション	なぜ進路は自分で決めなければならないのか。			グループ
2	進路の決め方	自分の得意なこと、好きなことより興味のある職業を見つけることができる。			個人
3	自己分析①自分を知る	進路を決めるに当たり、自分自身の長所・短所を知ることができる。			個人
4	自己分析②自分にあった職業を知る	どのような職業が自分に合っているか知ることができる。			個人
5	日本就業する条件	日本で働く際の条件・スキルが理解できる。			個人
6	進路計画を立てる	1年間の進路準備に向けて自分で計画が立てられる。			個人
7	求人・進学の見つけ方	学校検索、求人等の見方に付いて理解できる。			グループ
8	自分の進路を人に伝えよう	自分が希望する進路について自分の意見を発表できる。			グループ
9	就職した先輩の声 ①	日本で就職した外国国籍の方と意見交換ができる。			グループ
10	就職した先輩の声 ②	日本で進学した外国国籍の方と意見交換ができる。			グループ
11	就職紹介会社との座談会	日本の企業との意見交換ができる(ホテル業界)			グループ
12	就職受け入れ先との座談会	日本の企業との意見交換ができる(清掃業界)			グループ
13	進路計画の見直し	決めた進路がミスマッチではないか、計画はきちんと実行できるか確認ができる。			個人
14	これから必要なこと	計画の実施に当たって必要なことが理解できる。			グループ
15	まとめ	進路進め方、自分で進路を決めた進路についてどのように進めるかわかる。			グループ
期末試験	期末試験レポートの提出	評価方法	課題の達成度	60%	受講態度 40%
【教科書】	資料等を配布する				
【参考書】	必要に応じて教員から指示します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】					
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
介護福祉演習(2/4)		渡邊みどり			渡邊
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	後期	60(120)	講義	4
【授業の概要・目的】					
自分で決めた進路について計画的に実行できる。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
<ul style="list-style-type: none"> ・進路を決定することが出来る。 ・進路先に合格または内定をもらうことが出来る。 				発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性	
【履修上の注意】		主体的に授業に参加しましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
16	オリエンテーション	前期で行った学習の振り返りが出来る。			グループ
17	進路の計画の進捗について	計画した進路についての進捗が説明できる。			個人
18	入試・就職時に備えて①	志望動機を文字で説明することが出来る①			個人
19	入試・就職時に備えて②	願書および就職エントリーシートの書き方①			個人
20	入試・就職時に備えて③	身だしなみ、礼儀マナーが出来る①			グループ
21	入試・就職時に備えて④	面接の応答の仕方①			個人
22	入試・就職時に備えての心構え①	日本で就職した外国国籍の方と意見交換ができる。			個人
23	入試・就職時に備えての心構え②	日本で進学した外国国籍の方と意見交換ができる。			グループ
24	後輩に入試・就職時に備えてのハンドブックを作ろう	ハンドブックの企画をする。(目的・記載する概要について)			グループ
25	後輩に入試・就職時に備えてのハンドブックを作ろう	各項目ごとにグループを決め、項目ごとに記載する内容を考える。①			グループ
26	後輩に入試・就職時に備えてのハンドブックを作ろう	各項目ごとにグループを決め、項目ごとに記載する内容を考える。②			グループ
27	後輩に入試・就職時に備えてのハンドブックを作ろう	各項目ごとにグループを決め、項目ごとに記載する内容を考える。③			グループ
28	後輩に入試・就職時に備えてのハンドブックを作ろう	ハンドブックの構成をする。			グループ
29	後輩に入試・就職時に備えてのハンドブックを作ろう	ハンドブックの最終構成をする。			グループ
30	JL学科の2年生に向けての発表	入試・就職時に備えてのハンドブック			グループ
期末試験	期末試験レポートの提出	評価方法	課題の達成度	60%	受講態度 40%
【教科書】	資料等を配布する				
【参考書】	必要に応じて教員から指示します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】					
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
介護福祉演習(3/4)		渡邊みどり			渡邊
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	前期	45(90)	講義	3
【授業の概要・目的】					
現場で活用する福祉のテクノロジーについて、介護従事者として必要な知識・技術を習得する。					
【学習目標(到達目標)】 福祉のテクノロジーの活用方法を理解し、自ら活用方法について実践できる。				【受講して得られる力】 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性	
【履修上の注意】		主体的に授業に参加しましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
31	求められる介護職とは①	現場で求められる福祉職とは何か理解できる。			個人
32	福祉のテクノロジーについて①	福祉のテクノロジーの種類について理解できる。			個人
33	福祉業界の福祉のテクノロジーの課題について①	福祉業界のテクノロジーの種類について理解できる。			個人
34	福祉のテクノロジー体験演習①-1	ロボット機器の活用方法について理解できる。			グループ
35	福祉のテクノロジー体験演習②-1	ロボット機器の活用方法について理解できる。			グループ
36	福祉のテクノロジー体験演習③-1	ロボット機器の活用方法について理解できる。			グループ
37	福祉のテクノロジー体験演習④-1	ロボット機器の活用方法について理解できる。			グループ
38	福祉の福祉用具体験演習①	・介護保険制度			グループ
39	テクノロジーの活用方法についての理解①-1	活用するための課題が理解でき解決策を考えることができる。			グループ
40	テクノロジーの活用方法についての理解②-1	グループごとに活用方法・課題・解決策について発表できる。			グループ
41	施設見学 老人ホーム①-1	現場で活用しているテクノロジーの活用方法について知ることができる。			グループ
42	施設見学 デイサービス①-1	現場で活用しているテクノロジーの活用方法について知ることができる。			グループ
43	施設見学 障害施設①-1	現場で活用しているテクノロジーの活用方法について知ることができる。			グループ
44	施設見学 訪問介護①-1	現場で活用しているテクノロジーの活用方法について知ることができる。			グループ
45	介護総合課題演習①-1	見学したことについてグループごとにまとめ発表することができる。			グループ
期末試験	期末試験レポート	評価方法	課題の達成度 60%	受講態度 40%	
【教科書】	資料等を配布する				
【参考書】	必要に応じて教員から指示します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】OS機器を活用した、プレゼンの事例の検索を行う					
【本講義に関する質問先】担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
介護福祉演習(4/4)		渡邊みどり			渡邊
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	後期	60(120)	演習	4
【授業の概要・目的】					
・介護初任者研修課程で学んだ介護技術を再度確認し、理解を深める。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①リスクマネジメントの必要性がわかり、プロセスに沿って実践できる。 ②介護のレクリエーションについての必要性を理解し、自らレクリエーションを計画できる。				発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性	
【履修上の注意】		主体的に授業に参加しましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
46	リスクマネジメントについて①	リスクマネジメントとは何かどのようにマネジメントするべきかが理解できる。			グループ
47	リスクマネジメントについて②	感染症についてのリスク対策が理解でき、実践できる。			グループ
48	リスクマネジメントについて③	災害時に関するリスクマネジメントとは何か理解でき、実践			グループ
49	感染症対策について	手洗い、予防着の装着を適切に実践できる。			グループ
50	災害対策について	災害を想定し、介護職としての対応が実践できる。			グループ
51	介護のレクリエーションとは	介護のレクリエーションとはどのような場面で行うのか理解できる。			グループ
52	レクリエーション実践①	日本の歌を学び、その意味や歌う場面が理解できる。			グループ
53	レクリエーション実践②	日本の春の行事について、風習や作法について実践ができる。			グループ
54	レクリエーション実践③	日本の夏の行事について、風習や作法について実践ができる。			グループ
55	レクリエーション実践④	日本の秋の行事について、風習や作法について実践ができる。			グループ
56	レクリエーション実践⑤	日本の冬の行事について、風習や作法について実践ができる。			グループ
57	レクリエーション総合演習①	グループごとにレクリエーションを計画し、そのための準備ができる。			グループ
58	レクリエーション総合演習①	施設でレクリエーションが実践できる。			グループ
59	レクリエーション総合演習②	施設でレクリエーションが実践できる。			グループ
60	まとめ	このコマで行った内容について、チームごとに振り返り、発表することができる。			個人
期末試験	筆記・実技試験	評価方法	筆記試験 実技試験	40% 40%	受講態度 20%
【教科書】	介護職員初任者研修テキスト 第1・2版				
【参考書】	必要に応じて教員から指示します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		OS機器を活用した、プレゼンの事例の検索を行う			
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
介護総合(1/4)		渡邊みどり			渡邊
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
対人援助コミュニケーションの必要性が理解でき実践できる。					
【学習目標(到達目標)】 自己覚知の重要性を理解し、自分自身をどれだけ表現しているか理解できる。 人コミュニケーションスキルを活用し、他者とのコミュニケーションができる。				対	【受講して得られる力】 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
【履修上の注意】		主体的に授業に参加しましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション	対人援助コミュニケーションはなぜ必要か この学習で学ぶ学習ポイント			グループ
2	自己覚知(self-awareness)自分の感情の動きや思考回路を知る。①	他者とのコミュニケーションにおいて自分自身をどれだけ表現しているか理解できる。			グループ
3	自己覚知(self-awareness)自分の感情の動きや思考回路を知る。②	自分も他人も知っている特性を広げ、自分も他人も知らない特性を狭めていくことができる。			グループ
4	自分の表現する①	人に知ってほしい自分のアピールポイントが伝えられる。			グループ
5	自分の表現する②	自分の夢や、これからやってみたいことが伝えられる。			グループ
6	自分の表現する③	誰かと会話しているとき、相手の話の内容について自分はどうか感じているのか、自分が好きな人と苦手な人の違いなど相手に抱く感情に注意してみてください			グループ
7	自分の表現する④	自分がどんな考え方や感じ方や行動パターンがあるのか知ることができる。			グループ
8	対人とのコミュニケーション①	初対面でのコミュニケーションでファーストコンタクトの方法がわかる。			グループ
9	対人とのコミュニケーション②	傾聴や受容の重要性がわかり実践できる。			グループ
10	対人とのコミュニケーション③	良い受け答えや質問の仕方がわかり実践できる。			グループ
11	対人とのコミュニケーション④	話を整理して端的にわかりやすく説明できる。			グループ
12	対人とのコミュニケーション⑤	対人援助者に必要なマナーについてわかり実践できる。			グループ
13	実践①	人に説明する。①これから行うことを伝える。			グループ
14	実践②	人に説明する。②人をお願いする。			グループ
15	まとめ	振り返りを行い、この学習を通して対人コミュニケーションスキルを活用し、他者とのコミュニケーションの重要性が理解できる。			グループ
期末試験	期末試験レポートの提出	評価方法	課題の達成度	60%	受講態度 40%
【教科書】	資料等を配布する				
【参考書】	必要に応じて教員から指示します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】					
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
介護総合(2/4)		渡邊みどり			渡邊
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	前期	60(120)	演習	4
【授業の概要・目的】					
介護初任者研修課程で学んだ知識・技術を再度学び理解を深める。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①初任者研修で習得した知識を再確認し、実践することができる。				発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性	
【履修上の注意】		主体的に授業に参加しましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	介護における職務の理解	介護職が、活躍できる実際の現場について理解できる。			個人
2	介護における尊厳の保持と自立支援①	なぜ、介護に必要なのかが理解し、介護の専門職として支援していくことを理解する。			個人
3	介護における尊厳の保持と自立支援②	なぜ、介護に必要なのかが理解し、介護の専門職として支援していくことを理解する。			個人
4	介護の基本①	介護の基本を理解し介護の専門職として支援していくことを理解する。			個人
5	介護の基本②	介護の基本を理解し介護の専門職として支援していくことを理解する。			個人
6	虐待防止・身体拘束について	なぜ、介護に必要なのかが理解し、介護の専門職として支援していくことを理解する。			個人
7	老化の理解①	老化に伴って低下する身体機能について体験し日常生活に支障があることを理解する。			個人
8	老化の理解②	老化に伴って低下する身体機能について体験し日常生活に支障があることを理解する。			個人
9	認知症の理解①	認知症に伴うこころとからだの変化について理解した上で支援ができる。			個人
10	認知症の理解②	認知症に伴うこころとからだの変化について理解した上で支援ができる。			グループ
11	障害の理解①	障害に伴うこころとからだの変化について理解した上で支援ができる。			個人
12	障害の理解②	障害に伴うこころとからだの変化について理解した上で支援ができる。			グループ
13	介護におけるコミュニケーション技術①	介護におけるコミュニケーションの必要性について理解し実践できる。			個人
14	介護におけるコミュニケーション技術②	介護におけるコミュニケーションの必要性について理解し実践できる。			グループ
15	介護福祉演習課題演習	介護職として必要なことは何か、自ら説明ができる。			グループ
期末試験	筆記・実技試験	評価方法	筆記試験 実技試験	40% 40%	受講態度 20%
【教科書】	介護職員初任者研修テキスト 第1・2版				
【参考書】	必要に応じて教員から指示します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		OS機器を活用した、プレゼンの事例の検索を行う			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
介護総合(3/4)		渡邊みどり			渡邊
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	前期	45(90)	講義	3
【授業の概要・目的】					
介護職員初任者研修課程のカリキュラムを通し、介護従事者として必要な知識・技術を学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的イメージできる。 ②利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、基本的視点及びやってはいけない行動例を理解できる ③介護職の専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策を理解できる。 ④介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支える視点から支援を捉える事ができる。 ⑤のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることを認識し、専門職に求められていることを認識できる。				前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 生活援助技術 心身機能と構造の理解	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
16	職務の理解①		<ul style="list-style-type: none"> ・多彩なサービスの理解 ・介護職の仕事内容や働く現場の理解 		個人
17	職務の理解②		<ul style="list-style-type: none"> ・多彩なサービスの理解 ・介護職の仕事内容や働く現場の理解 		個人
18	介護における尊厳の保持・自立支援①		<ul style="list-style-type: none"> ・人権と尊厳を支える介護 ・自立に向けた介護 		個人
19	介護における尊厳の保持・自立支援②		<ul style="list-style-type: none"> ・人権と尊厳を支える介護 ・自立に向けた介護 		個人
20	介護における尊厳の保持・自立支援③		<ul style="list-style-type: none"> ・人権と尊厳を支える介護 ・自立に向けた介護 		個人
21	介護の基本①		<ul style="list-style-type: none"> ・介護職の役割、専門性と他職種との連携 ・介護職の職業倫理 		個人
22	介護の基本②		<ul style="list-style-type: none"> ・介護における安全の確保とリスクマネジメント ・介護職の安全 		個人
23	介護・福祉サービスの理解と医療との連携①		<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度 		個人
24	介護・福祉サービスの理解と医療との連携②		<ul style="list-style-type: none"> ・医療との連携とリハビリテーション 		個人
25	介護・福祉サービスの理解と医療との連携③		<ul style="list-style-type: none"> ・介護職の安全 		個人
26	老化の理解①		<ul style="list-style-type: none"> ・老化に伴うこころとからだの変化と日常 		個人
27	老化の理解②		<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の健康 		個人
28	認知症の理解①		<ul style="list-style-type: none"> ・認知症を取り巻く状況 ・医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 		個人
29	認知症の理解②		<ul style="list-style-type: none"> ・認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 ・家族への支援 		個人
30	障がいの理解		<ul style="list-style-type: none"> ・障がいの基礎的理解 ・家族の心理、かわり支援の理解 ・障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かわり支援等の基礎的知識 		個人
期末試験	期末試験60点以上で合格		評価方法	筆記試験 60%	受講態度 40%
【教科書】	【介護福祉士初任者研修テキスト】第1巻 介護のしごとの基礎 第3版(中央法規出版) 【介護福祉士初任者研修テキスト】第2巻 自立に向けた介護の実際 第2版(中央法規出版)				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習: 次回授業内容分のテキスト黙読 復習: 授業内容の復習、疑問点の整理			
【本講義に関しての質問先】		学科教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
介護総合(4/4)		渡邊みどり			渡邊
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
対人援助コミュニケーションの実践ができる。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
時と場所に応じた、対人コミュニケーションスキルを活用できる。				発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性	
【履修上の注意】		主体的に授業に参加しましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション	前回の対人援助コミュニケーションの復習			グループ
2	対人援助コミュニケーションの実践①	出会いの際のコミュニケーションが実践できる。			グループ
3	対人援助コミュニケーションの実践②	外出する場面を想定したコミュニケーションを図ることができる。			グループ
4	対人援助コミュニケーションの実践③	最近の話題についてコミュニケーションを図ることができる。			グループ
5	対人援助コミュニケーションの実践④	買い物する場面を想定したコミュニケーションを図ることができる。			グループ
6	対人援助コミュニケーションの実践⑤	話題の映画についてコミュニケーションを図ることができる。			グループ
7	対人援助コミュニケーションの実践⑥	体調がよくない人にコミュニケーションを図ることができる。			グループ
8	対人援助コミュニケーションの実践⑦	拒否をする人に適切なコミュニケーションを図ることができる。			グループ
9	対人援助コミュニケーションの実践⑧	帰りたいたいという人に適切なコミュニケーションを図ることができる。			グループ
10	対人援助コミュニケーションの実践⑨	早く食べる人に対して注意を促したコミュニケーションを図ることができる。			グループ
11	対人援助コミュニケーションの実践⑩	好きな音楽についてコミュニケーションを図ることができる。			グループ
12	対人援助コミュニケーションの実践⑪	作業をお願いするためのコミュニケーションを図ることができる。			グループ
13	対人援助コミュニケーションの実践⑫	電話で待ち合わせの時間を決めることができる。			グループ
14	対人援助コミュニケーションの実践⑬	謝罪をするコミュニケーションを図ることができる。			グループ
15	まとめ	振り返りを行い、この学習を通して時と場合に応じたコミュニケーションスキルを活用し、他者とのコミュニケーションの重要性が理解できる。			グループ
期末試験	期末試験レポートの提出	評価方法	課題の達成度	60%	受講態度 40%
【教科書】	資料等を配布する				
【参考書】	必要に応じて教員から指示します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】					
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
介護総合演習(1/6)		渡邊みどり			渡邊
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	前期	60(120)	演習・実習	4
【授業の概要・目的】					
介護職員初任者研修課程のカリキュラムを通し、介護従事者として必要な知識・技術を学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解できる。 ②障がいの概念とICF、障がい福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解できる。 ③介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ④尊厳を保持し、自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながら生活を支える介護を理解できる。				前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 生活援助技術 心身機能と構造の理解	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	介護におけるコミュニケーション技術①		・介護におけるコミュニケーション		個人
2	介護におけるコミュニケーション技術②		・介護におけるチームのコミュニケーション		個人
3	こころとからだのしくみと生活支援技術(基礎知識の学習①)		・介護の基本的な考え方 ・介護に関するこころのしくみの基礎的理解		個人
4	こころとからだのしくみと生活支援技術(基礎知識の学習②)		・介護の基本的な考え方 ・介護に関するこころのしくみの基礎的理解		個人
5	こころとからだのしくみと生活支援技術(基礎知識の学習③)		・介護の基本的な考え方 ・介護に関するからだのしくみの基礎的理解		個人
6	こころとからだのしくみと生活支援技術(基礎知識の学習④)		・介護の基本的な考え方 ・介護に関するからだのしくみの基礎的理解		個人
7	こころとからだのしくみと生活支援技術(生活支援技術の学習①)		・生活と家事①		個人
8	こころとからだのしくみと生活支援技術(生活支援技術の学習②)		・生活と家事②		個人
9	こころとからだのしくみと生活支援技術(生活支援技術の学習③)		・快適な居住環境整備と介護①		個人
10	こころとからだのしくみと生活支援技術(生活支援技術の学習④)		・快適な居住環境整備と介護②		個人
11	こころとからだのしくみと生活支援技術(生活支援技術の学習⑤)		・整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護①		個人
12	こころとからだのしくみと生活支援技術(生活支援技術の学習⑥)		・整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護②		個人
13	こころとからだのしくみと生活支援技術(生活支援技術の学習⑦)		・移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護①		個人
14	こころとからだのしくみと生活支援技術(生活支援技術の学習⑧)		・移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護②		個人
15	こころとからだのしくみと生活支援技術(生活支援技術の学習⑨)		・食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護①		個人
期末試験	期末試験60点以上で合格		評価方法	筆記試験 60%	受講態度 40%
【教科書】	【介護福祉士初任者研修テキスト】第1巻 介護のしごとの基礎 第3版(中央法規出版) 【介護福祉士初任者研修テキスト】第2巻 自立に向けた介護の実際 第2版(中央法規出版)				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習: 次回授業内容分のテキスト黙読 復習: 授業内容の復習、疑問点の整理			
【本講義に関しての質問先】		学科教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
介護総合演習(2/6)		渡邊みどり			渡邊
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護職員初任者研修科通信課程	1	前期	60(120)	演習・実習	4
【授業の概要・目的】					
介護職員初任者研修課程のカリキュラムを通し、介護従事者として必要な知識・技術を学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ②尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護を理解できる。 ③研修全体を振り返り、学んだことの再確認と、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題が認識できる。				前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 生活援助技術 心身機能と構造の理解	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
16	こころとからだのしくみと生活支援技術(生活支援技術の学習⑩)		・食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護②		個人
17	こころとからだのしくみと生活支援技術(生活支援技術の学習⑪)		・入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護①		個人
18	こころとからだのしくみと生活支援技術(生活支援技術の学習⑫)		・入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護②		個人
19	こころとからだのしくみと生活支援技術(生活支援技術の学習⑬)		・排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護①		個人
20	こころとからだのしくみと生活支援技術(生活支援技術の学習⑭)		・排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護②		個人
21	こころとからだのしくみと生活支援技術(生活支援技術の学習⑮)		・睡眠に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護①		個人
22	こころとからだのしくみと生活支援技術(生活支援技術の学習⑯)		・睡眠に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護②		個人
23	こころとからだのしくみと生活支援技術(生活支援技術の学習⑰)		・死ぬ行く人に関したこころとからだのしくみと終末期介護		個人
24	こころとからだのしくみと生活支援技術(生活支援技術演習①)		・介護過程の基礎的理解 ・総合生活支援技術演習		個人
25	こころとからだのしくみと生活支援技術(生活支援技術演習②)		・介護過程の基礎的理解 ・総合生活支援技術演習		個人
26	こころとからだのしくみと生活支援技術(生活支援技術演習③)		・介護過程の基礎的理解 ・総合生活支援技術演習		個人
27	こころとからだのしくみと生活支援技術(生活支援技術演習④)		・介護過程の基礎的理解 ・総合生活支援技術演習		個人
28	振り返り①		・振り返り		個人
29	振り返り②		・就業への備えと研修修了後における継続的な研修		個人
30	修了評価		・修了評価		個人
期末試験	期末試験60点以上で合格		評価方法	筆記試験 60%	受講態度 40%
【教科書】	【介護福祉士初任者研修テキスト】第1巻 介護のしごとの基礎 第3版(中央法規出版) 【介護福祉士初任者研修テキスト】第2巻 自立に向けた介護の実際 第2版(中央法規出版)				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習: 次回授業内容分のテキスト黙読 復習: 授業内容の復習、疑問点の整理			
【本講義に関しての質問先】		学科教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
介護総合演習(3/6)		渡邊みどり			渡邊
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	前期	60(120)	演習	4
【授業の概要・目的】					
現場で活用する福祉のテクノロジーについて、介護従事者として必要な知識・技術を習得する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
・福祉職として基本的な知識・実技が実践でき、対象者別に対応ができる。				発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性	
【履修上の注意】		主体的に授業に参加しましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
31	介護におけるコミュニケーション復習	介護におけるコミュニケーションの重要性を理解した上で、介護職として対象者に応じた対応が実践できる。			個人
32	実技演習①	利用者と家族へのかかわり方を理解し、介護職としての対応方法が実践できる。			個人
33	実技演習②	自分自身の心の自己分析することで、成長するための気づきを理解することができる。			個人
34	予防介護について復習	予防介護とはどのようなことを支援するのが理解できる。			グループ
35	実技演習①	予防介護をしている施設見学。			グループ
36	実技演習②	予防介護をしている施設見学。			グループ
37	障害の理解復習	障害に応じ、適切な支援方法が実践できる。			グループ
38	実技演習①	視覚障害者への身支度準備・外出介助が実践できる。			グループ
39	実技演習②	聴覚障害者への身支度準備・外出介助が実践できる。			グループ
40	終末期についての復習	死にゆく人、家族に対し、介護職としての支援方法が理解できる。			グループ
41	実技演習①	事例をもとに、介護と医療の終末期のケアが違うことを理解し、介護職として行うべき役割が理解できる。			グループ
42	実技演習②	事例をもとに、介護職として行うべき支援方法を考えることができる			グループ
43	介護総合演習課題①	老人ホームで働く介護従事者との座談会を開催			グループ
44	介護総合演習課題②	デイサービスの介護従事者との座談会を開催			グループ
45	まとめ	このコマで行った内容について、チームごとに振り返り、発表することができる。			グループ
期末試験	筆記試験	評価方法	課題の達成度 60%	受講態度 40%	
【教科書】	資料等を配布する				
【参考書】	必要に応じて教員から指示します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		OS機器を活用した、プレゼンの事例の検索を行う			
【本講義に関する質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
介護総合演習(4/6)		渡邊みどり			渡邊
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	前期	45(90)	講義	3
【授業の概要・目的】					
現場に必要な、介護従事者として必要な知識・技術を習得する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
現場で即活用できる実践・知識を自ら実践できる。				発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性	
【履修上の注意】		主体的に授業に参加しましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
46	書類の管理について	効率的な書類の管理について理解できる。			グループ
47	環境整備の理解と実践①	居室等の清掃や範囲について理解できる。			グループ
48	環境整備の理解と実践②	環境整備の重要性について理解し必要な環境を整えることができる。			グループ
49	外出支援の計画と実践①	対象者に合わせた外出支援の計画を立てることができる			グループ
50	外出支援の計画と実践②	計画した外出支援を実践することができる。			グループ
51	外出支援の計画と実践③	外出支援を振り返り、起こり得るリスクについて想定し対策を考えることができる。			グループ
52	高齢者の食事①	食事の形態を理解し、対象者に合わせて提供ができる。			グループ
53	高齢者の食事②	高齢者に喜ぶおやつを提供する。			グループ
54	高齢者の食事③	とろみを使って、対象者に合わせたとろみの提供ができる。			グループ
55	高齢者の食事④	行事食を計画し、提供することができる。			グループ
56	高齢者向けの運動	現場でできる上半身を使った運動が提供できる。			グループ
57	高齢者向けの運動	現場でできる下半身を使った運動が提供できる。			グループ
58	高齢者向けの運動	高齢者の身体の特徴や起こり得るリスク考えた運動を計画することができる。			グループ
59	高齢者向けの運動	高齢者向けの運動を提供することができる。			グループ
60	対象者に合わせた介護の実践①	対象者に合わせた環境整備、外出支援、身体介護についてアセスメントし介護目標を計画することができる。			グループ
期末試験	期末試験レポートの提出	評価方法	課題の達成度	60%	受講態度 40%
【教科書】	資料等を配布する				
【参考書】	必要に応じて教員から指示します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】					
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
介護総合演習(5/6)		渡邊みどり			渡邊
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	後期	15(30)	演習	1
【授業の概要・目的】					
介護に関心が持て、介護職としての基本的な知識や技術の言葉を学び、理解ができる。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①介護と福祉の言葉を学び、介護職としての役割や日本国の福祉制度について理解できる。 ②介護を理解し、介護に必要な専門性についての知識や技術を習得し実践することができる。				考え抜く力 チームで働く力 柔軟性 状況把握力 規律性	
【履修上の注意】		主体的に授業に参加しましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	職務の理解・サービスの種類と内容	介護保険サービス、日本の介護の考え方を理解できる。			個人
2	尊厳の保持と自立支援	利用者の尊厳のある暮らしを支援することを理解できる。			個人
3	介護の基本	介護の専門性、地域包括ケアを理解できる。			個人
4	介護の基本	安全性の確保、事故予防・安全対策、感染症対策を理解できる。			個人
5	介護と医療の連携	介護保険制度の目的、専門職の役割を理解できる。			個人
6	介護と医療の連携	介護職員ができる医療行為とやってはいけない医療行為を理解できる。			個人
7	介護におけるコミュニケーション	利用者、チームとのコミュニケーションを学び、理解できる。			個人
8	老化の理解	高齢者のこころとからだの変化や病気と特徴の言葉を学び、理解できる。			個人
9	老化の理解	症状からみた病気と観察ポイントと高齢者に多い病気の言葉を学び、理解できる。			個人
10	認知症の理解	利用者中心・その人らしさを大切にするケアを言葉から学び、理解することができる。			個人
11	認知症の理解	利用者中心・その人らしさを大切にするケアを言葉から学び、理解することができる。			個人
12	障害の理解	障害の意味と障害者福祉の考え方を言葉から学び、理解することができる。			個人
13	こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみ、生活と家事、居住環境整備、整容の言葉を学び、生活を支える技術・知識を理解する。			個人
14	こころとからだのしくみ	移動・移乗介助、食事、口腔ケアの言葉を学び、生活を支える技術・知識を理解する。			個人
15	こころとからだのしくみ	入浴・清潔保持、排泄介助、睡眠、看取りの言葉を学び、生活を支える技術・知識を理解する。			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	60%	受講態度 40%
【教科書】	資料等を配布する。				
【参考書】	必要に応じて教員から指示します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】					
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
介護総合演習(6/6)		渡邊みどり			渡邊
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	後期	60(120)	演習	4
【授業の概要・目的】					
介護初任者研修課程で学んだ知識・技術の中でテーマを決めて研究発表を行う					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①研究のテーマに沿って、PCDAサイクルのプロセスが実践できる。				発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性	
【履修上の注意】		主体的に授業に参加しましょう			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
16	介護に関する研究とは	介護に関する研究がなぜ必要なのか理解できる。			グループ
17	研究テーマの設定	グループで教科書の中から研究テーマを選出し、そのテーマの仮説を立てることができる。			グループ
18	研究の趣旨目的・研究方法	研究の趣旨目的の立案と研究方法の選定ができる。			グループ
19	調査方法	研究方法に基づいて、調査する内容が選定できる。			グループ
20	調査準備	調査に必要な書類が準備できる。			グループ
21	調査開始	調査が行える準備ができ、調査開始ができる。			グループ
22	進捗状況の確認①	これまでの進捗を振り返り、行った研究経過についてワークにまとめることができる。			グループ
23	進捗状況の確認②	これまでの進捗を振り返り、行った研究経過についてワークにまとめることができる。			グループ
24	調査集計	調査した結果を集計することができる。			グループ
25	分析・考察・課題の選出	テーマの仮説に沿って、調査結果を基に分析・考察・課題の抽出ができる。			グループ
26	研究報告書の作成①	報告する項目に沿って、研究報告書の作成することができる。			グループ
27	研究報告書の作成②	報告する項目に沿って、研究報告書の作成することができる。			グループ
28	研究報告書の作成③	報告する項目に沿って、研究報告書の作成することができる。			グループ
29	研究発表会 第1部	グループごとに研究発表することができる。			グループ
30	研究発表会 第2部 まとめ	グループごとに研究発表ことができ、これまでの研究についての振り返りができる。			グループ
期末試験	期末試験レポート	評価方法	課題の達成度 60%	受講態度 40%	
【教科書】	介護職員初任者研修テキスト 第1・2版				
【参考書】	必要に応じて教員から指示します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 OS機器を活用した、プレゼンの事例の検索を行う					
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
やさしい日本語(1/6)		進藤 智佳子			進藤
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	通年	90(180)	講義・演習	6
【授業の概要・目的】					
日常生活の様々な場面で使われている文法を学び、会話やスピーチ、読解の中の文法項目になじみ、日本語能力試験(JLPT)N3に合格できる日本語能力を身に着ける。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①文法を復習しながら、運用力を身に着ける。 ②自然な日本語の会話テクニックを身に着ける。 ③情報を聞き取り、自分の意見や考えを述べるができる。				運用力 読解力 聴解力 記述力	
【履修上の注意】 シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション	学習を通して、どのように学ぶのか、到達目標を理解する プレースメントテスト等日本語能力をチェック			個人
2	初級Ⅰ 総復習	学習を通して、どのように学ぶのか、到達目標を理解する プレースメントテスト等日本語能力をチェック			個人
3	初級Ⅱ 総復習	学習を通して、どのように学ぶのか、到達目標を理解する プレースメントテスト等日本語能力をチェック			個人
4	初級 作文	初級レベル 作文の総復習			個人
5	初級 聴解	初級レベル 聴解の総復習			個人
6	初級 漢字	初級レベル 漢字の総復習			個人
7	第1課 音楽と音の効果1	話しましょう・本文・言葉を確かめよう・内容を確かめよう			個人
8	第1課 音楽と音の効果2	学習項目・学習項目の練習・チェックシート・聴解タスクシート			個人
9	第1課 音楽と音の効果3	作文作成・作文発表・討論・プラスアルファ「形容詞の名詞化」			個人
10	第1課 音楽と音の効果4	漢字練習・読み練習・本文ルビ無しで読む			個人
11	第2課 いい数字・悪い数字1	話しましょう・本文・言葉を確かめよう・内容を確かめよう			個人
12	第2課 いい数字・悪い数字2	学習項目・学習項目の練習「数字」について読む・聞く・チェックシート・聴解タスクシート			個人
13	第2課 いい数字・悪い数字3	作文・作文発表・討論・プラスアルファ「数字のある熟語」			個人
14	第2課 いい数字・悪い数字4	漢字練習・読み練習・本文ルビ無しで読む			個人
15	第3課 「面白い」日本1	話しましょう・本文・言葉を確かめよう・内容を確かめよう			個人
期末試験	実施しない	評価方法	筆記試験 受講態度		
【教科書】	TRY! 日本語能力試験N3 文法から伸ばす日本語				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		自己学習、復習することが望ましい			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
やさしい日本語(2/6)		進藤 智佳子			進藤
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	通年	90(180)	演習・演習	6
【授業の概要・目的】					
日常生活の様々な場面で使われている文法を学び、会話やスピーチ、読解の中の文法項目になじみ、日本語能力試験(JLPT)N3に合格できる日本語能力を身に着ける。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①文法を復習しながら、運用力を身に着ける。 ②自然な日本語の会話テクニックを身に着ける。 ③情報を聞き取り、自分の意見や考えを述べるができる。				運用力 読解力 聴解力 記述力	
【履修上の注意】 シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
16	親しい人との会話:水泳大会(1)	個人的なことについて、確認しながら、友だちとおしゃべりができる。			個人
17	親しい人との会話:水泳大会(2)	個人的なことについて、意見や感想を交えて、友だちとおしゃべりができる。			個人
18	まとめの問題	文法形式の判断、文の組み立て、文章の文法、聴解の問題でN3の日本語能力を身に着ける。			個人
19	手作りハムのレシピ(1)	レシピを読んで、どんな料理か理解できる。			個人
20	手作りハムのレシピ(2)	レシピを読んで、料理の手順や注意が理解できる。			個人
21	まとめの問題	文法形式の判断、文の組み立て、文章の文法、聴解の問題でN3の日本語能力を身に着ける。			個人
22	スピーチ:里山について(1)	環境問題など、あるテーマについての発表で、問題提起ができ、自分の意見が言える。			個人
23	スピーチ:里山について(2)	環境問題など、あるテーマについて具定例から結論まで話し、全体としてまとまった発表ができる。			個人
24	まとめの問題	文法形式の判断、文の組み立て、文章の文法、聴解の問題でN3の日本語能力を身に着ける。			個人
25	店員との会話・親しい人との会話 不動産屋で(1)	店員が説明するていねいな表現を理解し、受け答えができる。			個人
26	店員との会話・親しい人との会話 不動産屋で(2)	友だちと、最近の変化について話したり、強くアドバイスをしたりすることができる。			個人
27	まとめの問題	文法形式の判断、文の組み立て、文章の文法、聴解の問題でN3の日本語能力を身に着ける。			個人
28	面接での会話:就職の面接(1)	初対面の人に敬意を示す基本的な表現を使って、あいさつや受け答えができる。			個人
29	面接での会話:就職の面接(2)	初対面の人に敬意を示す基本的な表現を使って、あいさつや受け答えができる。			個人
30	まとめの問題	文法形式の判断、文の組み立て、文章の文法、聴解の問題でN3の日本語能力を身に着ける。			個人
期末試験	実施しない	評価方法	筆記試験 受講態度		
【教科書】	TRY! 日本語能力試験N3 文法から伸ばす日本語				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		自己学習、復習することが望ましい			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
やさしい日本語(3/6)		進藤 智佳子			進藤
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	通年	90(180)	講義・演習	6
【授業の概要・目的】					
語彙を増やし、多様な文章の読み書きができる。読解力を向上し、一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①JLPTN2、N3レベルの文型・表現・語彙の運用力を身に着ける。 ②JLPTN2、N3レベルの自然な日本語の会話テクニックを身に着ける。 ③JLPTN2、N3レベルの文章の読み書き、読解力を身に着ける。				運用力 読解力 聴解力 記述力	
【履修上の注意】 シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
31	親しい人との会話:ゆきの選択(1)	将来の展望について、自分の意見を強く主張することができる。			個人
32	親しい人との会話:ゆきの選択(1)	身近な人について、やや批判的に評価を言うことができる。			個人
33	まとめの問題	文法形式の判断、文の組み立て、文章の文法、聴解の問題でN3の日本語能力を身に着ける。			個人
34	親しい人との会話:友だちのお見舞い(1)	困った状況とそのときの心情について、具体的に説明したり、表現したりすることができる。			個人
35	親しい人との会話:友だちのお見舞い(2)	困った状況とそのときの心情について、具体的に説明したり、表現したりすることができる。			個人
36	まとめの問題	文法形式の判断、文の組み立て、文章の文法、聴解の問題でN3の日本語能力を身に着ける。			個人
37	第1課 音楽と音の効果1	話しましょう・本文・言葉を確かめよう・内容を確かめよう			個人
38	第1課 音楽と音の効果2	学習項目・学習項目の練習・チェックシート・聴解タスクシート			個人
39	第1課 音楽と音の効果3	作文作成・作文発表・討論・プラスアルファ「形容詞の名詞化」			個人
40	第1課 音楽と音の効果4	漢字練習・読み練習・本文ルビ無しで読む			個人
41	第2課 いい数字・悪い数字1	話しましょう・本文・言葉を確かめよう・内容を確かめよう			個人
42	第2課 いい数字・悪い数字2	学習項目・学習項目の練習「数字」について読む・聞く・チェックシート・聴解タスクシート			個人
43	第2課 いい数字・悪い数字3	作文・作文発表・討論・プラスアルファ「数字のある熟語」			個人
44	第2課 いい数字・悪い数字4	漢字練習・読み練習・本文ルビ無しで読む			個人
45	第3課 「面白い」日本1	話しましょう・本文・言葉を確かめよう・内容を確かめよう			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 50% 受講態度 50%	レポート	
【教科書】	TRY! 日本語能力試験N3、N2 文法から伸ばす日本語				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		自己学習、復習することが望ましい			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
やさしい日本語(4/6)		進藤 智佳子			進藤
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	通年	90(180)	講義・演習	6
【授業の概要・目的】					
語彙を増やし、多様な文章の読み書きができる。読解力を向上し、一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①JLPTN3レベルの文型・表現・語彙の運用力を身に着ける。 ②JLPTN3レベルの自然な日本語の会話テクニックを身に着ける。 ③JLPTN3レベルの文章の読み書き、読解力を身に着ける。				運用力 読解力 聴解力 記述力	
【履修上の注意】 シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
16	第3課 「面白い」日本2	学習項目・学習項目の練習・チェックシート・聴解タスクシート			個人
17	第3課 「面白い」日本3	作文作成・作文発表・討論・プラスアルファ「形容詞の名詞化」			個人
18	第3課 「面白い」日本4	漢字練習・読み練習・本文ルビ無しで読む			個人
19	第4課 くしゃみ1、2	話しましょう・本文・言葉を確認しよう・内容を確認しよう			個人
20	第4課 くしゃみ3、4	学習項目・学習項目の練習・チェックシート・聴解タスクシート			個人
21	第5課 私の町1	話しましょう・本文・言葉を確認しよう・内容を確認しよう			個人
22	第5課 私の町2	学習項目・学習項目の練習「数字」について読む・聞く・チェックシート聴解タスクシート			個人
23	第5課 私の町3	作文・作文発表・討論・プラスアルファ「位置を表す言葉」			個人
24	第5課 私の町4	漢字練習・読み練習・本文ルビ無しで読む			個人
25	第6課 この日に食べなきゃ、意味がない！1	話しましょう・本文・言葉を確認しよう・内容を確認しよう			個人
26	第6課 この日に食べなきゃ、意味がない！2	学習項目・学習項目の練習「数字」について読む・聞く・チェックシート聴解タスクシート			個人
27	第6課 この日に食べなきゃ、意味がない！3、4	作文・作文発表・討論・プラスアルファ「味を表す言葉・食事の言葉」 漢字練習・読み練習・本文ルビ無しで読む			個人
28	第7課 お相撲さんの世界1	話しましょう・本文・言葉を確認しよう・内容を確認しよう			個人
29	第7課 お相撲さんの世界2	学習項目・学習項目の練習「数字」について読む・聞く・チェックシート聴解タスクシート			個人
30	第7課 お相撲さんの世界3、4	作文・作文発表・討論・プラスアルファ「自己アピールに関する言葉」 漢字練習・読み練習・本文ルビ無しで読む			個人
期末試験	実施しない	評価方法	筆記試験 受講態度	レポート	
【教科書】	中級を学ぼう 日本語の文型と表現56 中級前期 第2版				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		自己学習、復習することが望ましい			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
やさしい日本語(5/6)		進藤 智佳子			進藤
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	通年	90(180)	講義・演習	6
【授業の概要・目的】					
語彙を増やし、多様な文章の読み書きができる。読解力を向上し、一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①JLPTN2レベルの文型・表現・語彙の運用力を身に着ける。 ②JLPTN2レベルの自然な日本語の会話テクニックを身に着ける。 ③JLPTN2レベルの文章の読み書き、読解力を身に着ける。				運用力 読解力 聴解力 記述力	
【履修上の注意】 シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
21	第1課 色1	扉のページ・キーワード・本文・言葉を確認しよう・内容を確認しよう			個人
32	第1課 色2	学習項目・学習項目の練習			個人
33	第1課 色3	聴解1・2			個人
34	第1課 色4	作文・プラスアルファ・関連読み物			個人
35	まとめ・振り返り	第1課を復習し、わからないところを理解する			個人
36	第2課 ユーモア・ジョーク1	扉のページ・キーワード・本文・言葉を確認しよう・内容を確認しよう			個人
37	第2課 ユーモア・ジョーク2	学習項目・学習項目の練習			個人
38	第2課 ユーモア・ジョーク3	聴解1・2			個人
39	第2課 ユーモア・ジョーク4	作文・プラスアルファ・関連読み物			個人
40	まとめ・振り返り	第2課を復習し、わからないところを理解する			個人
41	第3課 制服1	扉のページ・キーワード・本文・言葉を確認しよう・内容を確認しよう			個人
42	第3課 制服2	学習項目・学習項目の練習			個人
43	第3課 制服3	聴解1・2			個人
44	第3課 制服4	作文・プラスアルファ・関連読み物			個人
45	まとめ・振り返り	第3課を復習し、わからないところを理解する			個人
期末試験	実施しない	評価方法	筆記試験 受講態度	レポート	
【教科書】	中級を学ぼう 日本語の文型と表現82 中級中期				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 自己学習、復習することが望ましい					
【本講義についての質問先】 担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
やさしい日本語(6/6)		進藤 智佳子			進藤
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	通年	90(180)	講義・演習	6
【授業の概要・目的】					
語彙を増やし、多様な文章の読み書きができる。読解力を向上し、一般的な事柄や抽象的なテーマについて会話ができる。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①JLPTN2レベルの文型・表現・語彙の運用力を身に着ける。 ②JLPTN2レベルの自然な日本語の会話テクニックを身に着ける。 ③JLPTN2レベルの文章の読み書き、読解力を身に着ける。				運用力 読解力 聴解力 記述力	
【履修上の注意】 シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
46	第4課 算数1	扉のページ・キーワード・本文・言葉をかめよう・内容をかめよう			個人
47	第4課 算数2	学習項目・学習項目の練習			個人
48	第4課 算数3	聴解1・2			個人
49	第4課 算数4	作文・プラスアルファ・関連読み物			個人
50	まとめ・振り返り	第1課を復習し、わからないところを理解する			個人
51	第5課 遊びと運動1	扉のページ・キーワード・本文・言葉をかめよう・内容をかめよう			個人
52	第5課 遊びと運動2	学習項目・学習項目の練習			個人
53	第5課 遊びと運動3	聴解1・2			個人
54	第5課 遊びと運動4	作文・プラスアルファ・関連読み物			個人
55	まとめ・振り返り	第5課を復習し、わからないところを理解する			個人
56	第6課 お金1	扉のページ・キーワード・本文・言葉をかめよう・内容をかめよう			個人
57	第6課 お金2	学習項目・学習項目の練習			個人
58	第6課 お金3	聴解1・2			個人
59	第6課 お金4	作文・プラスアルファ・関連読み物			個人
60	まとめ・振り返り	第6課を復習し、わからないところを理解する			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 受講態度	50% 50%	レポート
【教科書】	中級を学ぼう 日本語の文型と表現82 中級中期				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 自己学習、復習することが望ましい					
【本講義についての質問先】 担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
日本語演習		進藤 智佳子			進藤
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	通年	90(180)	講義・演習	6
【授業の概要・目的】					
「文字・語彙」、「文法」を集中的に学習することで、JLPTN3、N4レベルの日本語能力を身に着ける。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①文字・語彙・文法の問題を集中的に解くことで、問題の解き方を身に着ける。 ②実力を知り、繰り返し学ぶことで着実に日本語能力を身に着ける。 ③解答、解説をすることで、間違えた問題は間違えない力を身に着けることができる。				運用力 読解力 聴解力 記述力	
【履修上の注意】 シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	模擬テスト	模擬テストにチャレンジ！解答・解説で復習をし、日本語能力N3、N4に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
2	模擬テスト 採点・解説	模擬テストにチャレンジ！解答・解説で復習をし、日本語能力N3、N4に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
3	総まとめ ポイント1、2	短期集中！総まとめで復習をし、日本語能力N3、N4に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
4	総まとめ ポイント3、4	短期集中！総まとめで復習をし、日本語能力N3、N4に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
5	総まとめ ポイント5、6	短期集中！総まとめで復習をし、日本語能力N3、N4に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
6	総まとめ ポイント7、8	短期集中！総まとめで復習をし、日本語能力N3、N4に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
7	総まとめ ポイント9、10	短期集中！総まとめで復習をし、日本語能力N3、N4に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
8	総まとめ ポイント11、12	短期集中！総まとめで復習をし、日本語能力N3、N4に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
9	総まとめ ポイント13、14	短期集中！総まとめで復習をし、日本語能力N3、N4に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
10	総まとめ ポイント15、16	短期集中！総まとめで復習をし、日本語能力N3、N4に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
11	総まとめ ポイント17、18	短期集中！総まとめで復習をし、日本語能力N3、N4に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
12	総まとめ ポイント19、20	短期集中！総まとめで復習をし、日本語能力N3、N4に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
13	模擬テスト	模擬テストにチャレンジ！解答・解説で復習をし、日本語能力N3、N4に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
14	模擬テスト	模擬テストにチャレンジ！解答・解説で復習をし、日本語能力N3、N4に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
15	模擬テスト	模擬テストにチャレンジ！解答・解説で復習をし、日本語能力N3、N4に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
期末試験	実施しない	評価方法	筆記試験 受講態度	レポート	
【教科書】	資料等を配布する				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		自己学習、復習することが望ましい			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
日本語演習		進藤 智佳子			進藤
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	通年	90(180)	講義・演習	6
【授業の概要・目的】					
「文字・語彙」、「文法」を集中的に学習することで、JLPTN2、N3レベルの日本語能力を身に着ける。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①文字・語彙・文法の問題を集中的に解くことで、問題の解き方を身に着ける。 ②実力を知り、繰り返し学ぶことで着実に日本語能力を身に着ける。 ③解答、解説をすることで、間違えた問題は間違えない力を身に着けることができる。				運用力 読解力 聴解力 記述力	
【履修上の注意】 シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	模擬テスト	模擬テストにチャレンジ！解答・解説で復習をし、日本語能力N2、N3に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
2	模擬テスト 採点・解説	模擬テストにチャレンジ！解答・解説で復習をし、日本語能力N2、N3に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
3	総まとめ ポイント1、2	短期集中！総まとめで復習をし、日本語能力N2、N3に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
4	総まとめ ポイント3、4	短期集中！総まとめで復習をし、日本語能力N2、N3に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
5	総まとめ ポイント5、6	短期集中！総まとめで復習をし、日本語能力N2、N3に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
6	総まとめ ポイント7、8	短期集中！総まとめで復習をし、日本語能力N2、N3に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
7	総まとめ ポイント9、10	短期集中！総まとめで復習をし、日本語能力N2、N3に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
8	総まとめ ポイント11、12	短期集中！総まとめで復習をし、日本語能力N2、N3に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
9	総まとめ ポイント13、14	短期集中！総まとめで復習をし、日本語能力N2、N3に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
10	総まとめ ポイント15、16	短期集中！総まとめで復習をし、日本語能力N2、N3に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
11	総まとめ ポイント17、18	短期集中！総まとめで復習をし、日本語能力N2、N3に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
12	総まとめ ポイント19、20	短期集中！総まとめで復習をし、日本語能力N2、N3に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
13	模擬テスト	模擬テストにチャレンジ！解答・解説で復習をし、日本語能力N2、N3に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
14	模擬テスト	模擬テストにチャレンジ！解答・解説で復習をし、日本語能力N2、N3に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
15	模擬テスト	模擬テストにチャレンジ！解答・解説で復習をし、日本語能力N2、N3に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
期末試験	実施しない	評価方法	筆記試験 受講態度	レポート	
【教科書】	資料等を配布する				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		自己学習、復習することが望ましい			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
やさしい日本語(6/6)		進藤 智佳子			進藤
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	通年	90(180)	演習・演習	6
【授業の概要・目的】					
「文字・語彙」、「文法」を集中的に学習することで、JLPTN3、2レベルの日本語能力を身に着ける。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①文字・語彙・文法の問題を集中的に解くことで、問題の解き方を身に着ける。 ②実力を知り、繰り返し学ぶことで着実に日本語能力を身に着ける。 ③解答、解説をすることで、間違えた問題は間違えない力を身に着けることができる。				運用力 読解力 聴解力 記述力	
【履修上の注意】 シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
16	模擬テスト第1回	模擬テストにチャレンジ！解答・解説で復習をし、日本語能力N3、2に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
17	模擬テスト第2回	模擬テストにチャレンジ！解答・解説で復習をし、日本語能力N3、2に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
18	模擬テスト第3回	模擬テストにチャレンジ！解答・解説で復習をし、日本語能力N3、2に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
19	模擬テスト第4回	模擬テストにチャレンジ！解答・解説で復習をし、日本語能力N3、2に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
20	模擬テスト第5回	模擬テストにチャレンジ！解答・解説で復習をし、日本語能力N3、2に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
21	模擬テスト第6回	模擬テストにチャレンジ！解答・解説で復習をし、日本語能力N3、2に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
22	模擬テスト第7回	模擬テストにチャレンジ！解答・解説で復習をし、日本語能力N3、2に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
23	模擬テスト第8回	模擬テストにチャレンジ！解答・解説で復習をし、日本語能力N3、2に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
24	模擬テスト第9回	模擬テストにチャレンジ！解答・解説で復習をし、日本語能力N3、2に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
25	模擬テスト第10回	模擬テストにチャレンジ！解答・解説で復習をし、日本語能力N3、2に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
26	模擬テスト第11回	模擬テストにチャレンジ！解答・解説で復習をし、日本語能力N3、2に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
27	模擬テスト第12回	模擬テストにチャレンジ！解答・解説で復習をし、日本語能力N3、2に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
28	模擬テスト第13回	模擬テストにチャレンジ！解答・解説で復習をし、日本語能力N3、2に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
29	模擬テスト第14回	模擬テストにチャレンジ！解答・解説で復習をし、日本語能力N3、2に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
30	模擬テスト第15回	模擬テストにチャレンジ！解答・解説で復習をし、日本語能力N3、2に合格できる日本語力を身に着ける。			個人
期末試験	実施しない	評価方法	筆記試験 受講態度	レポート	
【教科書】	資料等を配布する				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		自己学習、復習することが望ましい			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

日本語教師実践コース

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
教育演習 I (1/6)		花城可武			進藤
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	通年	90(180)	演習・実習	6
【授業の概要・目的】					
日本語教授法を理解し、実践できる能力を身に付ける。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①留学生と共に学ぶことで、コミュニケーション能力を身に着けることができる。 ②JLPTN3レベルの日本語を教える基礎知識を習得することができる。 ③JLPTN3レベルの日本語を教えるポイントやスキルの実践能力を身につける。				運用力 読解力 聴解力 記述力	
【履修上の注意】 シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション	日本語授業の構成や指導内容を確認する			個人
2	教育演習/ 語彙・文章表現1	文法、語彙の習得や口頭、文章表現能力の向上を目的とした日本語指導を理解する			個人
3	教育演習/聴解1	聴解ストラテジーの習得や聴解能力の向上を目的とした日本語指導を理解する			個人
4	教育演習/作文作成1	表現や構造などの文章表現の方法や、作文指導において文章産出能力の向上を目的とした日本語指導を理解する			個人
5	教育演習/読解1	読解ストラテジーの習得や読解能力の向上を目的とした日本語指導、漢字練習・読み練習について理解する			個人
6	教育演習/語彙・文章表現2	文法、語彙の習得や口頭、文章表現能力の向上を目的とした日本語指導を理解する			個人
7	教育演習/聴解2	聴解ストラテジーの習得や聴解能力の向上を目的とした日本語指導を理解する			個人
8	教育演習/作文作成2	表現や構造などの文章表現の方法や、作文指導において文章産出能力の向上を目的とした日本語指導を理解する			個人
9	教育演習/読解2	読解ストラテジーの習得や読解能力の向上を目的とした日本語指導、漢字練習・読み練習について理解する			個人
10	教育演習/語彙・文章表現3	文法、語彙の習得や口頭、文章表現能力の向上を目的とした日本語指導を理解する			個人
11	教育演習/聴解3	聴解ストラテジーの習得や聴解能力の向上を目的とした日本語指導を理解する			個人
12	教育演習/作文作成3	表現や構造などの文章表現の方法や、作文指導において文章産出能力の向上を目的とした日本語指導を理解する			個人
13	教育演習/読解3	読解ストラテジーの習得や読解能力の向上を目的とした日本語指導、漢字練習・読み練習について理解する			個人
14	教育演習/授業案作成	日本語の学習内容、指導方法を理解する。 授業案を作成する。			個人
15	教育演習/授業実践	日本語の学習内容、指導方法を理解し、授業を実践する。			個人
期末試験	授業案/模擬授業	評価方法	課題の達成度	50%	受講態度
				50%	
【教科書】	中級を学ぼう 日本語の文型と表現56 中級前期 第2版				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 授業の理解について振り返りシートを作成する					
【本講義についての質問先】 担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
教育演習 I (2/6)		花城可武			進藤
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	通年	90(180)	演習・実習	6
【授業の概要・目的】					
日本語教授法を理解し、実践できる能力を身に付ける。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①留学生と共に学ぶことで、コミュニケーション能力を身に着けることができる。 ②JLPTN3レベルの日本語を教える基礎知識を習得することができる。 ③JLPTN3レベルの日本語を教えるポイントやスキルの実践能力を身につける。				運用力 読解力 聴解力 記述力	
【履修上の注意】 シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
16	教育演習/語彙・文章表現5	文法、語彙の習得や口頭、文章表現能力の向上を目的とした日本語指導を理解する			個人
17	教育演習/聴解5	聴解ストラテジーの習得や聴解能力の向上を目的とした日本語指導を理解する			個人
18	教育演習/作文作成5	表現や構造などの文章表現の方法や、作文指導において文章産出能力の向上を目的とした日本語指導を理解する			個人
19	教育演習/読解5	読解ストラテジーの習得や読解能力の向上を目的とした日本語指導、漢字練習・読み練習について理解する			個人
20	教育演習/授業案作成	日本語の学習内容、指導方法を理解する。 授業案を作成する。			個人
21	教育演習/語彙・文章表現6	文法、語彙の習得や口頭、文章表現能力の向上を目的とした日本語指導を理解する			個人
22	教育演習/聴解6	聴解ストラテジーの習得や聴解能力の向上を目的とした日本語指導を理解する			個人
23	教育演習/作文作成6	表現や構造などの文章表現の方法や、作文指導において文章産出能力の向上を目的とした日本語指導を理解する			個人
24	教育演習/読解6	読解ストラテジーの習得や読解能力の向上を目的とした日本語指導、漢字練習・読み練習について理解する			個人
25	教育演習/授業案作成	日本語の学習内容、指導方法を理解する。 授業案を作成する。			個人
26	語彙、文章表現演習7	文法、語彙の習得や口頭、文章表現能力の向上を目的とした日本語指導を理解する			個人
27	聴解演習7	聴解ストラテジーの習得や聴解能力の向上を目的とした日本語指導を理解する			個人
28	作文作成演習7	作文・作文発表・討論・プラスアルファ「自己アピールに関する言葉」			個人
29	読解演習7	漢字練習・読み練習・本文ルビ無しで読む			個人
30	模擬授業	日本語教授法を活用し模擬授業を実践する。			個人
期末試験	模擬授業案/模擬授業	評価方法	課題の達成度	50%	受講態度
				50%	
【教科書】	中級を学ぼう 日本語の文型と表現56 中級前期 第2版				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 授業の理解について振り返りシートを作成する					
【本講義についての質問先】 担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
教育演習 I (3/6)		花城可武			進藤
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	通年	90(180)	演習・実習	6
【授業の概要・目的】					
日本語教授法を理解し、実践できる能力を身に付ける。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①日本語教授法の基礎力向上にプラスアルファする発信力が身に付く実践能力を身に付ける。 ②JLPTN2レベル日本語教育の4つの技能(読む・書く・聞く・話す)を養成する教授法を身に付ける。 ③JLPTN2レベルの日本語を教えるポイントやスキルの実践能力を身につける。				運用力 読解力 聴解力 記述力	
【履修上の注意】 シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
31	教育演習/語彙・聴解・読解	語彙力、聴解力、読解力を養成する日本語教授法を理解する			個人
32	教育演習/発信力	意見陳述、説明文を養成する、作文・作文発表・討論・プラスアルファ「ディベート」について理解する			個人
33	教育演習/読解・漢字	読解ストラテジーの習得や読解能力の向上を目的とした日本語指導、漢字練習・読み練習について理解する			個人
34	教育演習/4技能の力	知識を意識化、活性化につながる日本語教育を理解する			個人
35	教育演習/授業案作成	日本語の学習内容、指導方法を理解する。 授業案を作成する。			個人
36	教育演習/語彙・聴解	聴解ストラテジーの習得や聴解能力の向上を目的とした日本語指導を理解する			個人
37	教育演習/発信力	意見陳述、説明文を養成する、作文・作文発表・討論・プラスアルファ「ディベート」について理解する			個人
38	教育演習/4技能の力	知識を意識化、活性化につながる日本語教育を理解する			個人
39	教育演習/語彙・聴解	聴解ストラテジーの習得や聴解能力の向上を目的とした日本語指導を理解する			個人
40	教育演習/授業案作成	日本語の学習内容、指導方法を理解する。 授業案を作成する。			個人
41	教育演習/発信力	意見陳述、説明文を養成する、作文・作文発表・討論・プラスアルファ「ディベート」について理解する			個人
42	教育演習/4技能の力	知識を意識化、活性化につながる日本語教育を理解する			個人
43	教育演習/授業案作成	日本語の学習内容、指導方法を理解する。 授業案を作成する。			個人
44	教育演習/授業案作成	日本語の学習内容、指導方法を理解する。 授業案を作成する。			個人
45	模擬授業	日本語教授法を活用し模擬授業を実践する。			個人
期末試験	模擬授業	評価方法	課題の達成度	50%	受講態度
				50%	
【教科書】	中級を学ぼう 日本語の文型と表現82 中級中期				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 授業の理解について振り返りシートを作成する					
【本講義についての質問先】 担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
教育演習 I (4/6)		花城可武			進藤
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	通年	90(180)	演習・実習	6
【授業の概要・目的】					
日本語教授法を理解し、実践できる能力を身に付ける。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①留学生と共に学ぶことで、コミュニケーション能力を身に着けることができる。 ②JLPTN2レベルの日本語を教える基礎知識を習得することができる。 ③JLPTN2レベルの日本語を教えるポイントやスキルの実践能力を身につける。				運用力 読解力 聴解力 記述力	
【履修上の注意】 シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
46	教育演習/語彙・聴解・読解	語彙力、聴解力、読解力を養成する日本語教授法を理解する			個人
47	教育演習/4技能の力	知識を意識化、活性化につながる日本語教育を理解する			個人
48	教育演習/語彙・聴解	聴解ストラテジーの習得や聴解能力の向上を目的とした日本語指導を理解する			個人
49	教育演習/発信力	意見陳述、説明文を養成する、作文・作文発表・討論・プラスアルファ「ディベート」について理解する			個人
50	教育演習/授業案作成	日本語の学習内容、指導方法を理解する。 授業案を作成する。			個人
51	教育演習/4技能の力	知識を意識化、活性化につながる日本語教育を理解する			個人
52	教育演習/語彙・聴解	聴解ストラテジーの習得や聴解能力の向上を目的とした日本語指導を理解する			個人
53	教育演習/発信力	意見陳述、説明文を養成する、作文・作文発表・討論・プラスアルファ「ディベート」について理解する			個人
54	教育演習/語彙・聴解・読解	語彙力、聴解力、読解力を養成する日本語教授法を理解する			個人
55	教育演習/4技能の力	知識を意識化、活性化につながる日本語教育を理解する			個人
56	教育演習/語彙・聴解	聴解ストラテジーの習得や聴解能力の向上を目的とした日本語指導を理解する			個人
57	教育演習/発信力	意見陳述、説明文を養成する、作文・作文発表・討論・プラスアルファ「ディベート」について理解する			個人
58	模擬授業案作成	日本語教授法を活用し授業実践を体験する			個人
59	模擬授業案作成	日本語教授法を活用し授業実践を体験する			個人
60	模擬授業	日本語教授法を活用し授業実践を体験する			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	課題の達成度	50%	受講態度
				50%	
【教科書】	中級を学ぼう 日本語の文型と表現82 中級中期				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 授業の理解について振り返りシートを作成する					
【本講義についての質問先】 担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
教育演習 I (5/6)		花城可武			進藤
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	通年	90(180)	演習・実習	6
【授業の概要・目的】					
日本語能力試験(JLPT)N3を取得するための日本語能力を習得する文字語彙、表現文法の教育能力を身に付ける。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①文字・語彙・文法の問題を集中的に解くことで、問題の解き方を理解し、教育できる。 ②日本語能力試験N3を取得するための日本語能力を理解することで、教育方法が理解できる。 ③読解力、聴解力向上に必須の文字語彙、表現文法の教育方法が理解できる。				運用力 読解力 聴解力 記述力	
【履修上の注意】 シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
61	教育演習/模擬テスト1	N3模擬テストを解き、解答・解説をすることで、JLPTN3に合格できる日本語能力を理解する。			個人
62	教育演習/模擬テスト2	N3模擬テストを解き、解答・解説をすることで、JLPTN3に合格できる日本語能力を理解する。			個人
63	教育演習/模擬テスト3	N3模擬テストを解き、解答・解説をすることで、JLPTN3に合格できる日本語能力を理解する。			個人
64	教育演習/模擬テスト4	N3模擬テストを解き、解答・解説をすることで、JLPTN3に合格できる日本語能力を理解する。			個人
65	教育演習/模擬テスト5	N3模擬テストを解き、解答・解説をすることで、JLPTN3に合格できる日本語能力を理解する。			個人
66	教育演習/模擬テスト6	N3模擬テストを解き、復習の中で初級・中級の指導ポイントを理解する。			個人
67	教育演習/模擬テスト7	N3模擬テストを解き、復習の中で初級・中級の指導ポイントを理解する。			個人
68	教育演習/模擬テスト8	N3模擬テストを解き、復習の中で初級・中級の指導ポイントを理解する。			個人
69	教育演習/模擬テスト9	N3模擬テストを解き、復習の中で初級・中級の指導ポイントを理解する。			個人
70	教育演習/模擬テスト10	N3模擬テストを解き、復習の中で初級・中級の指導ポイントを理解する。			個人
71	教育演習/模擬テスト11	N3模擬テストを解き、復習の中で初級・中級の指導ポイントを理解する。			個人
72	教育演習/模擬テスト12	N3模擬テストを解き、復習の中で初級・中級の指導ポイントを理解する。			個人
73	教育演習/模擬テスト13	N3模擬テストを解き、復習の中で初級・中級の指導ポイントを理解する。			個人
74	教育演習/模擬テスト14	N3模擬テストを解き、復習の中で初級・中級の指導ポイントを理解する。			個人
75	総まとめ	初級・中級指導ポイントから日本語教授法についてまとめる			個人
期末試験	レポート	評価方法	レポート 受講態度	30% 50%	課題の達成度 20%
【教科書】	資料等を配布する				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 授業の理解について振り返りシートを作成する					
【本講義についての質問先】 担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
教育演習 I (6/6)		花城可武			進藤
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	通年	90(180)	演習・実習	6
【授業の概要・目的】					
日本語能力試験(JLPT)N2を取得するための日本語能力を習得する文字語彙、表現文法の教育能力を身に付ける。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①文字・語彙・文法の問題を集中的に解くことで、問題の解き方を理解し、教育できる。 ②日本語能力試験N2を取得するための日本語能力を理解することで、教育方法が理解できる。 ③読解力、聴解力向上に必須の文字語彙、表現文法の教育方法が理解できる。				運用力 読解力 聴解力 記述力	
【履修上の注意】 シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
76	教育演習/模擬テスト1	N2模擬テストを解き、解答・解説をすることで、JLPTN2に合格できる日本語能力を理解する。			個人
77	教育演習/模擬テスト2	N2模擬テストを解き、解答・解説をすることで、JLPTN2に合格できる日本語能力を理解する。			個人
78	教育演習/模擬テスト3	N2模擬テストを解き、解答・解説をすることで、JLPTN2に合格できる日本語能力を理解する。			個人
79	教育演習/模擬テスト4	N2模擬テストを解き、解答・解説をすることで、JLPTN2に合格できる日本語能力を理解する。			個人
80	教育演習/模擬テスト5	N2模擬テストを解き、解答・解説をすることで、JLPTN2に合格できる日本語能力を理解する。			個人
81	教育演習/模擬テスト6	N2模擬テストを解き、復習の中で初級・中級の指導ポイントを理解する。			個人
82	教育演習/模擬テスト7	N2模擬テストを解き、復習の中で初級・中級の指導ポイントを理解する。			個人
83	教育演習/模擬テスト8	N2模擬テストを解き、復習の中で初級・中級の指導ポイントを理解する。			個人
84	教育演習/模擬テスト9	N2模擬テストを解き、復習の中で初級・中級の指導ポイントを理解する。			個人
85	教育演習/模擬テスト10	N2模擬テストを解き、復習の中で初級・中級の指導ポイントを理解する。			個人
86	教育演習/模擬テスト11	N2模擬テストを解き、復習の中で初級・中級の指導ポイントを理解する。			個人
87	教育演習/模擬テスト12	N2模擬テストを解き、復習の中で初級・中級の指導ポイントを理解する。			個人
88	教育演習/模擬テスト13	N2模擬テストを解き、復習の中で初級・中級の指導ポイントを理解する。			個人
89	教育演習/模擬テスト14	N2模擬テストを解き、復習の中で初級・中級の指導ポイントを理解する。			個人
90	総まとめ	初級・中級指導ポイントから日本語教授法についてまとめる			個人
期末試験	レポート	評価方法	レポート 受講態度	30% 50%	課題の達成度 20%
【教科書】	資料等を配布する				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 授業の理解について振り返りシートを作成する					
【本講義についての質問先】 担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
教育演習Ⅱ(1/3)		花城可武			進藤
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	通年	45(90)	演習・実習	3
【授業の概要・目的】					
日本語教授法を理解し、N3レベルの授業が実践できる能力を身に付ける。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①留学生と共に学び、日本語教授法と結びつけながら日本語教育を理解し、実践することができる。 ②日本語を教える基礎知識を習得することができる。 ③N3レベルの日本語を教えるポイントを理解し、実践能力を身につける。				応用力 思考力 指導力 実践力	
【履修上の注意】 シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	教育演習/作文1	留学生と共に学ぶ中で、日本語教師の学習指導と留意点、授業の進め方について学ぶ。			個人
2	教育演習/作文2	留学生と共に学ぶ中で、日本語教師の学習指導と留意点、授業の進め方について学ぶ。			個人
3	まとめの問題	日本語の学習内容、指導方法を理解する。レポートを作成する。			個人
4	教育演習/ブログ1	留学生と共に学ぶ中で、日本語教師の学習指導と留意点、授業の進め方について学ぶ。			個人
5	教育演習/ブログ2	留学生と共に学ぶ中で、日本語教師の学習指導と留意点、授業の進め方について学ぶ。			個人
6	まとめの問題	日本語の学習内容、指導方法を理解する。レポートを作成する。			個人
7	教育演習/お知らせ1	留学生と共に学ぶ中で、日本語教師の学習指導と留意点、授業の進め方について学ぶ。			個人
8	教育演習/お知らせ2	留学生と共に学ぶ中で、日本語教師の学習指導と留意点、授業の進め方について学ぶ。			個人
9	まとめの問題	日本語の学習内容、指導方法を理解する。レポートを作成する。			個人
10	教育演習/会話1	留学生と共に学ぶ中で、日本語教師の学習指導と留意点、授業の進め方について学ぶ。			個人
11	教育演習/会話2	留学生と共に学ぶ中で、日本語教師の学習指導と留意点、授業の進め方について学ぶ。			個人
12	まとめの問題	日本語の学習内容、指導方法を理解する。レポートを作成する。			個人
13	教育演習/料理のレシピ1	留学生と共に学ぶ中で、日本語教師の学習指導と留意点、授業の進め方について学ぶ。			個人
14	教育演習/料理のレシピ2	留学生と共に学ぶ中で、日本語教師の学習指導と留意点、授業の進め方について学ぶ。			個人
15	まとめの問題	留学生と共に学ぶ中で、日本語教師の学習指導と留意点、授業の進め方について学ぶ。			
期末試験	レポート	評価方法	課題の達成度 20% 受講態度 50%	レポート	30%
【教科書】	TRY! 日本語能力試験N3 文法から伸ばす日本語				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		レポート、振り返りシート作成			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
教育演習Ⅱ(2/3)		花城可武			進藤
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	通年	45(90)	演習・実習	3
【授業の概要・目的】					
日本語教授法を理解し、N3レベルの授業が実践できる能力を身に付ける。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①留学生と共に学び、日本語教授法と結びつけながら日本語教育を理解し、実践することができる。 ②日本語を教える基礎知識を習得することができる。 ③N3レベルの日本語を教えるポイントを理解し、実践能力を身につける。				応用力 思考力 指導力 実践力	
【履修上の注意】 シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
16	教育演習/スピーチ1	留学生と共に学ぶ中で、日本語教師の学習指導と留意点、授業の進め方について学ぶ。			個人
17	教育演習/スピーチ2	留学生と共に学ぶ中で、日本語教師の学習指導と留意点、授業の進め方について学ぶ。			個人
18	まとめの問題	日本語の学習内容、指導方法を理解する。レポートを作成する。			個人
19	教育演習/会話1	留学生と共に学ぶ中で、日本語教師の学習指導と留意点、授業の進め方について学ぶ。			個人
20	教育演習/会話2	留学生と共に学ぶ中で、日本語教師の学習指導と留意点、授業の進め方について学ぶ。			個人
21	まとめの問題	日本語の学習内容、指導方法を理解する。レポートを作成する。			個人
22	教育演習/面接での会話1	留学生と共に学ぶ中で、日本語教師の学習指導と留意点、授業の進め方について学ぶ。			個人
23	教育演習/面接での会話2	留学生と共に学ぶ中で、日本語教師の学習指導と留意点、授業の進め方について学ぶ。			個人
24	授業案作成	日本語の学習内容、指導方法を理解する。授業案を作成する。			個人
25	教育演習/授業実践	日本語教授法を応用し、作成した授業案を実践する。			個人
26	教育演習/授業実践	日本語教授法を応用し、作成した授業案を実践する。			個人
27	授業案作成	日本語の学習内容、指導方法を理解する。授業案を作成する。			個人
28	教育演習/授業実践	日本語教授法を応用し、作成した授業案を実践する。			個人
29	教育演習/授業実践	日本語教授法を応用し、作成した授業案を実践する。			個人
30	模擬授業	作成した授業案で模擬授業を実践する。			
期末試験	授業案/模擬授業	評価方法	課題の達成度 受講態度	30% 50%	レポート 20%
【教科書】	TRY! 日本語能力試験N3 文法から伸ばす日本語				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		レポート、振り返りシート作成			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
教育演習Ⅱ(3/3)		花城可武			進藤
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
国際日本語学科	1	通年	45(90)	演習・実習	3
【授業の概要・目的】					
日本語教授法を理解し、N2レベルの授業が実践できる能力を身に付ける。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①留学生と共に学び、日本語教授法と結びつけながら日本語教育を理解し、実践することができる。 ②日本語を教える基礎知識を習得することができる。 ③N3レベルの日本語を教えるポイントを理解し、実践能力を身につける。				応用力 思考力 指導力 実践力	
【履修上の注意】 シラバスと併せて、「学習活動」「単位認定」に関して、学生便覧を確認すること					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
31	教育演習/お知らせを読む	留学生と共に学びながら、日本語教師の学習指導と留意点、授業の進め方について学ぶ。			個人
32	授業案作成	日本語の学習内容、指導方法を理解する。授業案を作成する。			個人
33	教育演習/スピーチ1	留学生と共に学びながら、日本語教師の学習指導と留意点、授業の進め方について学ぶ。			個人
34	教育演習/スピーチ2	留学生と共に学びながら、日本語教師の学習指導と留意点、授業の進め方について学ぶ。			個人
35	授業案作成	日本語の学習内容、指導方法を理解する。授業案を作成する。			個人
36	教育演習/説明を聞く	留学生と共に学びながら、日本語教師の学習指導と留意点、授業の進め方について学ぶ。			個人
37	授業案作成	日本語の学習内容、指導方法を理解する。授業案を作成する。			個人
38	教育演習/ニュースを聞く	留学生と共に学びながら、日本語教師の学習指導と留意点、授業の進め方について学ぶ。			個人
39	教育演習/授業実践	日本語の学習内容、指導方法を理解する。授業案を作成する。			個人
40	教育演習/授業実践	自分の困った状況が友だちに説明できる。			個人
41	教育演習/授業実践	自分の困った状況が友だちに説明できる。友だちの話に共感して励ますことができる。			個人
42	授業案作成	日本語の学習内容、指導方法を理解する。授業案を作成する。			個人
43	授業案作成	自分の困った状況が友だちに説明できる。友だちの話に共感して励ますことができる。			個人
44	授業案作成	自分の状況や決意したことを友達に話せる。			個人
45	模擬授業	日本語の学習内容、指導方法を理解する。授業案を作成する。			個人
期末試験	授業案/模擬授業	評価方法	課題の達成度	50%	受講態度
【教科書】	TRY! 日本語能力試験N2 文法から伸ばす日本語				
【参考書】	なし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		レポート、振り返りシート作成			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	